

「本音は総合事務所の統廃合ではないのか」との声も

「総合事務所のあり方」について市民のみなさんのご意見をお聴きする会（安塚コミュニティプラザ）

先月28日に、安塚コミュニティプラザで行った「市民のみなさんのご意見をお聴きする会」には、10名近くの市民のみなさんにお集まりいただき、率直なご意見を寄せいただきました。

この会は、日本共産党上越市議団が呼びかけ、「総合事務所のあり方」をテーマにしたものです。

橋爪団長から、この間の総合事務所を巡る問題の経緯を説明した後、みなさんのご意見を伺いました。

なぜ、集約化なのか

産業建設グループの集約化については、「合併の時からある意味で予想はしていたが、本音は総合事務所の統廃合だろう」といった指摘が出されたのを皮切りに、つぎつぎに率直なご意見が寄せられました。

また、「集約化を進めると、都市内分権のあるべき姿はどうなるのか」「各区への権限の分散はどうなるのか」といった、自治のあり方に関する指摘も寄せられました。

さらに、「各区の総合事務所だけが取りざたされているが、一方で木田庁舎はどう

なるのか。木田庁舎内の改革の内容が不明のまま進めるのは不公平だ」「合併協議では、合併してから10年は大きく変わることはないということが保証されているのに、見切り発車ではないか」と、合併地域の住民の率直な思いと同時に、市内全域を見据えた指摘もありました。

さらに、この間の合併地域の実態を踏まえ、「合併当時は何事もいちいち木田庁舎に伺いを立てていた。いくらかはよくなったが、集約化でなおさらそうなるのではないか」という指摘や、グループ集約への本質的疑問とも言える「同時に災害が多発する際にはどう対応するのか」といった意見が相次いで出されました。

やり方・手法にも疑問

今回示された集約のやり方にも疑問の声が上がりました。

「産建グループの集約も、具体的にイメージを示されないと可否を判断できない。行政は『十分に説明した』と言っているが、そうではなく、強引ではないか」

「こうした提案は、原案の段階から各区の地域協議会にはかるなど、住民を交えて議論してはどうか」

「地域協議会にはいったいいつどのようなかたちでかけることになるのか」

「地域ごとのグループ分けのやり方にも問題がある。

板倉区、清里区などは5区が1グループだが、総合事務所内の3つのグループが集約されると、何も残らない事務所が出てくることになる」

こうした率直な疑問に、行政は丁寧に答えるべきです。

職員配置や補完措置は

集約化されるとしても、その後の対応にも心配の声が出されています。

「各区の職員はそれぞれの事情に精通できるようにと言っているが、そうした地域への精通をめざしてどんな配置をするのか」「板倉区では、地滑り災害の真っ最中でありながら、担当グループから4人も異動した。残ったのは2人だ。これでは



どうにもならない。今回の災害現場は、地滑り災害の指定地ではないところだ。区内のすべての危険箇所を地図落としするなどの対応が必要だが、少ない職員でそれができるのか」といった、実態に即した指摘のほか、「集約化されて事務所が遠くなると、公共交通網はどうなるのか。そうしたことを考慮に入れたまちづくりの方向も明らかにならないとおかしい」といった地域生活を考えた意見も出されました。

対応した議員団は、「各地域に住んで住民と思いをともにすることなしに自治は育たない。職員と同時に議員も問われている。皆さんの意見を十分に反映させるよう全力を尽くす」と答えました。



日本共産党上越市議員団ニュース

No.337 2012年9月9日

連絡先

橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)

親子で元気に運動遊び

9月2日には、リージョンプラザで、恒例の私立保育園協会「みんなともだちげんきっこ」が行われ、300組の親子が楽しいひとときを過ごしました。

ゲスト(日本遊育研究所専任講師のお二人)の指導のもと、一緒に運動遊びをした

り、親子のふれあい活動を楽しみ、親子の歓声が響き渡りました。

スタジアム内を所狭しと駆け回って親子で遊ぶ姿は、見ているだけで楽しくなり、一緒に走り回りたくなります。

私立保育園協会 リージョンで「みんなともだちげんきっこ」

私立保育園は市内の子育て支援に大きな力を発揮しています。今年度は、保育士給与の改善、「気になる子」への対応、一定数以上の乳児受け入れの際の看護師配置などに対して、行政からの支援も充実が図られました。

